

Talk & Talk

市民談話室

日ごろ考えていることや身の回りの出来事などを、500字程度にまとめて投稿してください。紙面の都合上、若干手直しさせていただくこともあります。あて先は広報広聴係（〒950-12 白根市大字白根1235 白根市役所企画財政課）です。

犬を助けて いただいで

横川良枝（大通二）

我が家には家族同様可愛がっている犬がおります。人間で言うともう八十五歳くらいだそうで、年のせいで目は白内障を患いほとんど見え、耳もほとんど聞こえません。そんな状態なので、遠くへは行かないだろうと散歩へ行くときは綱を放して出掛けていました。

六月十九日の夜、いつものように散歩に出掛け、ふと後ろを振り返ると犬がいないことに気が付きました。慌てて子供と二人であちこち探しましたが、なかなか見つかりません。今度は二人で手分けして探し、ようやく子供が空き地でぐったりしている犬を見つけました。翌朝、すぐに動物病院に運ぶと、幸いな

できない人もたくさんいます。それを考えたら、こうして外出できることは、大勢の皆さん、家族のおかげと感謝しなければなりません。

敬老会では、私のことを「いつもいつも若々しいね」とか「元気ですね」とかほめてくれる人も多くいました。本当に楽しく過ごした一日でした。また来年も元気で敬老会に出たいものと思っています。



猪股南魚の 句集『女百句』について

大風会（俳句の会）会長
公條雪夫（日の出町）

戸籍名 丸山 悟

南魚さんこと猪股武雄氏（五六の町）がこのたび、素晴らしい句集を刊行されました。題して「替女百句」。現在では、替女さんたちの姿も口説きもすっかり遠い存在になってしまいましたが、年配の方々には懐かしいものと思われそうです。

現在、胎内やすらぎの家でこ

生活なさっている小林ハルさんを除いては、替女という特殊な生き方を続け、昔の旅をして回っていた替女さんたちはもういないのです。南魚さんの生家が造り酒屋で、広く替女さんに宿を提供しておられたということもあり、「替女百句」の中の一一句は替女たちの姿を見事にとらえ、温かい心で包んで作句されています。

三人の替女の行く手の冬の海

この句は厳しい替女の旅を温かい目で見つめている南魚さんの心の眼です。

昭和二十二年から俳句の道に入られた南魚さんは俳句誌に投句を続けられ、厳しい選者の眼で選ばれた句は五十年の間で膨大な数に及びます。その中で、替女のものも、百数十句になり、その中から自身の心で百句まとめて一冊の句集にされた難行苦行の果ての「替女百句」です。

厚浦田秋日に温め替女迎ふ
南魚

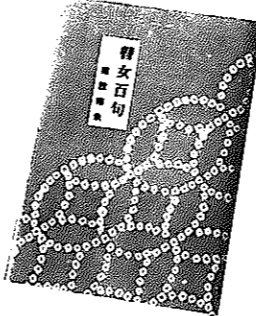
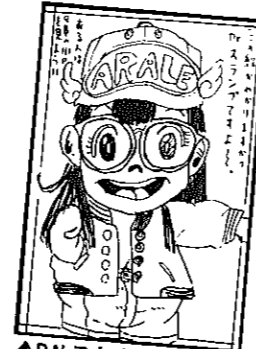


イラスト クラブ

- ◎イラストははがきに黒一色ではっきりと。
- ◎薄い鉛筆書きはボツにします。
- ◎ペンネーム希望の人も住所、氏名、年齢を忘れずに。採用分には粗品を進呈。
- ◎締め切りは毎月15日。それ以降に届いたものは翌月に回します。
- ◎あて先 〒950-12 白根市大字白根1235 白根市役所広報しろねイラスト係



▲ささき えりさん (高井東・7歳)



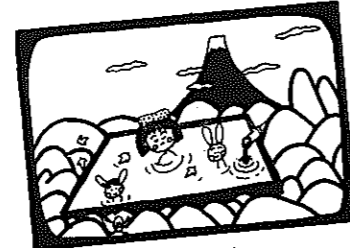
▲P.N スカイターボさん (朝捲・12歳)



▲P.N 中居クンLoveさん (大通南)



▲P.N かんざきさん (白井)



▲P.N 翔平のママさん (山崎興野・27歳)



▲P.N きぐるみうさぎさん

広報クイズ

【応募方法】 はがきに答え、住所、氏名、年齢、ご意見を書いて白根市役所広報係（〒950-12 白根市大字白根1235）へ。締め切りは11月15日（金）必着。正解者の中から抽選で5人に500円の図書券を、3人に県立自然科学館招待券をペアで差し上げます。

- 【問題】
- ①しろねオータムフェスティバルの人出は2日間で約何人？（ヒント＝3ページ）
A＝3万人 B＝3万6千人 C＝4万人
 - ②市がFM新津主催のネットワークを使って始めた情報提供サービスは何？（ヒント＝6ページ）
A＝パソコン通信 B＝インターネット C＝ファックス通信
 - ③大通地区公民館で廃油を使って作ったものは？（ヒント＝13ページ）
A＝石けん B＝シャンプー C＝リンス
- 【当選おめでとう】 先月の正解は①C②C③Bでした。【図書券】 柏範子（下木山） 西野美和（戸石新田） 山際直子（杉菜町） 皆川光樹（日の出町） 那須野美和子（高井東） 【自然科学館招待券】 田中清（和泉） 長谷川幸江（堀掛） 田辺照雄（戸頭）

今月のハガキから

- ◎私の家でも犬を飼っています。何回か逃げ出したことがあり、近所の方に迷惑を掛けたこともありました。動物が好きな人ばかりではないんですね。気を付けなければいけないと思います。（K）
- ◎暑い暑いと言ってビールを飲んでいた夏が、いつのまにか走り去り、今日ではもうストーブに火を入れています。新潟の長い冬の訪れですね。（S）
- ◎オータムフェスティバルはとでもすてきでした。ただ、駐車場の少なさには困ってしまいます。路上駐車が多いこと。（T）

市民文芸

- 俳句
- 桃灼けてひび割れふかくあはれなり 山田 孝
- 千草を跨ぎ跨ぎ郵便夫 五十嵐寛吾
- 新涼や糊のききたる割煮者 和泉 伸子
- 秋味の上る瀬の水跳ねとばし 安沢 飛浪
- 炎天下枯木の如き老来たる 樋口 トシ
- ぼつぼつと西あたる中大根餅く 五十嵐智恵子
- 踊りの輪廓るるさんさ時雨かな 公條 雪夫
- 秋茄子ぶらりと一つ長かりし 山口 初野
- すたすたと雪駄を履いて盆の僧 吉川八重子
- 菜を問引くつもり大根厚時き 成沢 素明
- この村も過疎となりゆく蕎麦の花 小林 光子
- 西瓜食べつつ見合ひせしと思ふ 猪股 南魚
- 訪ふ人もなき尼寺の叢の實 間島きよ子
- 子が眠りその母眠りお嬢 真島つぎえ
- 駆けて来し子のポケットに 小林富沙子
- 錠剤の転げし隅におけら鳴く 小林 なお
- 青竹の立て掛けてあり叢の木 知野信一郎
- 栗の実忘れ去られて色づきぬ 塚本 静子
- 鈴成りのなつめ見えてる老人車 金子 千代
- 秘密めく子のポケットに 間島 秀穂
- 短歌
- 問引かれし菜洗い一つ息子の好きな 田中 恭子
- 秋の風日ごと涼しく窓に入り 木川 久子
- 夏の思い出遠ざかりつつ 大旗 イツ
- 早稲秋に色づく稲穂たれさがる 重作の夢不安もありて 河内 勝哉
- シンクロの優美な演技 阪井いくの 勝哉
- 四季を表現し替女 飯井いくの 勝哉
- 海の色見渡す限り広がりて 鮎 淑子
- 木犀の甘い香りも日の進み 中村 京
- かすかとなりて秋深りぬ 中村 京
- 川柳
- 尖閣で振る平成三国志 中村 尚治
- 空気がより妻よ女で居て欲しい 西条 ムラ
- 清貧の家にも同じ陽が昇る 山岡 フミ
- 右往左往拳手起立だけの金バッチ 吉川 彰
- 補聴器を外して妻と喧嘩する 今井 七郎
- 少年の明日を覗く虚無の風 織田 福治
- 肩の荷を下ろして視野を広くする 織田 セツ
- 孫生まれ帰っておいでよ黄泉の妻 大谷 龍吉
- 此の頃は聞く耳持たぬ娘となりぬ 岡 満記子
- 高齢者国の荷物となつて生さ 後藤マサノ
- 偽りの愛刺みつつ夕焼ける 佐藤マサノ
- 地獄極楽雑木林を通り抜け 佐藤 ヨキ
- 楯山へ嘘はつけないカタツムリ 田村 恒夫
- 一、〇二〇円払って延命 高橋祐四雄
- 指さすと夜空に見える父の星 今井八重子